

令和元年6月17日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2018

課題番号：16H05659

研究課題名（和文）現代インドにおけるポスト開発：媒介と協同性のポリティクス

研究課題名（英文）Post-Development in Contemporary India: Politics of Intermediaries and Associations

研究代表者

池亀 彩（Ikegame, Aya）

東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・准教授

研究者番号：40590336

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,500,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者・分担者による3年間のフィールドワークによって、これまで着目されてこなかった様々なポスト開発の運動の実例が明らかになった。池亀の調査ではグルを媒介者とすることで深刻な水不足に瀕した地域で新しい灌漑事業が始まっている。田辺は部族民の住むインド山岳地帯における「開発」状況について調査し、NGOがコンドたちを開発支援・教育支援をして、平地でのメインストリームに合流させる「主体化の政治」を明らかにした。石坂は日本発の「自然農法」がインドで代替的な方法として影響力を増している現状について調査した。また竹村はシンガポールにおけるタミル系移民による新たな伝統の創造の歴史過程を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトの学術的・社会的意義は、これまでの開発研究では見落とされてきた、国家や国際機関主導ではない、しばしばボトムアップ的な様々な開発運動を「ポスト開発」として捉え直し、具体的な事例を通じて、共生の倫理、民主主義、持続可能な資源の有効利用といった現代的な課題を考えることにある。本研究の成果は、媒介者の役割がこうした現代的な課題の糸口として有効に機能していることを明らかにし、これからの開発を考える上で重要な視点を提出した。現地の人々が主体的に模索している開発のあり方が今後の援助政策にも生かされるよう、広く本研究の成果を公表して行く予定である。

研究成果の概要（英文）：Through 3-years of field work, the researchers in our project have discovered many examples of 'post-development' which have not been previously recognised. Ikegame has found, for example, a case in which a guru enabled irrigation project in a drought prone area. Tanabe has recognised 'the politics of subjectivation' in a tribal area where NGOs encouraged development and education and reconnected tribal populations into the mainstream. Ishizaka has researched the growing influence of 'natural farming', that has originated in Japan, as an alternative farming method in India. Takemura has traced a history of new 'national tradition' promoted by Tamil migrants in Singapore.

研究分野：文化・社会人類学

キーワード：ポスト開発 インド

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで人類学と開発とは必ずしも歩調を共にする関係ではなかった。人類学者の知識を植民地統治や少数民族の統治に役立てようとする動きと、現地の人々の文化を守ろうとする人類学者とはしばしば対立しがちであった。1990年代にはポストコロニアル批判の流れをうけて、エスコバル(Escobar 1995)に代表されるような人類学者による開発批判が行われた。開発批判は開発の言説(進歩、貧困)を新植民地主義と捉え、先進国から後進国への一方的な開発が、結果的に後進国の依存を強固なものにしているとした。2000年代以降、開発を一枚岩的に否定する開発批判に対して、開発プロジェクトが生み出す複雑な関係性、開発の多様なアクターが作り出すネットワーク、予期しなかった影響などを詳細に描いていく「開発の民族誌」が生まれてくる。モス(Mosse 2005)らに代表されるこの学派は、一方的に見えがちな開発の多様性を明らかにし、トップダウン型の開発の地域社会へのインパクトを具体的に分析している。しかしラトゥールのアクターネットワーク論に強い影響をうけた「開発の民族誌」派はネットワーク内部の政治性に無自覚になりがちで、調査の対象は先進国の援助を受けたプロジェクト中心である。今、注目されるのは、国家や市場経済そしてグローバルな市民社会と関わりながら、地域社会の人びとが自らの生活基盤(生存環境、文化的自律性、社会正義)を維持・向上しようとする動きである。本研究はこうした新たなボトムアップの動きを「ポスト開発」という視点から描写・分析する。

2. 研究の目的

環境破壊や資源の枯渇が顕著になりつつあるインドにおいて、これまでのトップダウン型の開発援助に限界が見え始めている。今、注目されるのは、国家や市場経済そしてグローバルな市民社会と関わりながら、地域社会の人びとが自らの生活基盤を維持・向上しようとする動きである。本研究はこうした新たなボトムアップの動きを「ポスト開発」という視点から描写・分析する。特に、地域社会の「協同性」のありかたを人びとが再定義することで自らの社会・文化的な位置付けを向上させようとする動き、また地域社会と国家・市場・市民社会とを新たにつなぎ直そうとする「媒介者」の役割に着目する。「ポスト開発」の具体例として環境運動、オルタナティブな開発運動、新しい文化・宗教運動を取り上げ、現地調査を通じて、その可能性と課題を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では研究代表者と分担者がこれまでの開発研究では扱われなかったボトムアップ的な「ポスト開発」の事例をフィールドワークによって具体的に明らかにする。特に新しい協同関係の発生とメカニズム、そして「媒介者」の役割に着目し、それぞれの事例の独自性、共通する課題などを定期的開催する研究会を通じて議論・分析していく。また国内外の学会で「ポスト開発」に関する研究パネルを開き、内外の研究者との積極的な意見交換を行い、「ポスト開発」という新しい枠組みのさらなる理論化を目指す。

4. 研究成果

これまで評価されてこなかった「媒介者」に着目し、広義に定義された開発が国家や国際機関主導ではなく、人々が積み上げていく形の「ポスト開発」という概念が、徐々に明確になってきているだけでなく、現地でのフィールドワークによって具体的な事例の積み上げができた。

それぞれが3年間で行ってきたフィールドワークによって、これまで着目されたこなかった様々な運動が見えてきた。例えば、池亀が調査したカルナータカ州ではグルを媒介者とした開発プロジェクトでは、深刻な水不足に直面している農村地域で新しい灌漑事業が始まっていることや、旧不可触民ダリットのグルによるソーラーランプ配布事業や土地権回復運動の盛りを見せていることが明らかになった。田辺はオディシャ州・ニヤムギリ地域のドングリア・コンドをめぐる「開発」状況について調査し、鉱山開発のために金と権力で彼らを移動させる「排除の政治」の代わりに、企業や政府が支援するNGO群がコンドたちを開発支援・教育支援をして、平地でのメインストリームに合流させる「主体化の政治」が広く行われるようになったことを明らかにした。また石坂は日本発の「自然農法」がインドで代替的な方法として影響力を増している現状について明らかにした。これは20世紀中葉の緑の革命以降、農薬や化学肥料によって農業生産性を上げてきた農民たちが、そうしたモノカルチャー的な農業に限界を感じ、代替的な農法を模索していることの現れである。一方で、こうした環境主義が近年問題視されているヒンドゥー至上主義とも結び付いている状況もあり、今後も引き続き観察していく必要のある重要な課題である。また竹村はシンガポールにおけるタミル系移民による新たな伝統の創造について明らかにしている。ここでは南インドに起源を持つバラタナーティヤムや低カーストの太鼓などがシンガポールという新しい文脈で、形式やスタイルがどのように取捨選択、あるいは創造され、シンガポールの国民的伝統となっていくかが詳細に調べられた。この過程でも文化ブローカーというべき数人の存在が重要であること、インドとの親族関係を通じたネットワークによる伝統の伝播などが明らかにされた。

3年間の研究では、外国人研究者を招いたセミナーを2回(2016年11月25日開催場所:東京大学東洋文化研究所、および2017年10月22日、東京外国語大学本郷サテライト)を開いた他、ポスト開発概念の発展のための研究会(2017年3月10日、愛媛大学法学部)を行った。

プロジェクト全体で行った大きな業績としては、2019年3月29日に国立シンガポール大学南アジア研究プログラムと共同で行った国際ワークショップ Rethinking Development: Network, Brokers and Devotionがある。ここではそれぞれが3年間の成果を「ポスト開発」という概念の枠組みの中で検証しながら、発表を行った。国立シンガポール大学からも多くの研究者・学生が発表・参加してくれ、非常に意義のある意見交換が行われた。今後はここでの発表をさらに発展させ、2019年10月にアメリカ合衆国で行われる Annual Conference on South Asia でパネル発表を行う予定である(すでに採択済み)。また6月に東京大学で開かれる国際会議 Crossing Boundaries でも研究発表を行う予定である。これは移民研究を中心とした文理融合型の会議であるが、ここでも媒介者や信仰・親族を通じた協同をテーマに本研究プロジェクトでの成果を英語で発表する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 21 件)ここには代表的なもののみ挙げる。

1. Akio Tanabe (印刷中) 2019 ' Vernacular Democracy and Politics of Relationships: A Subaltern Perspective on Contemporary India ', *Calcutta Journal*.
2. 田辺明生 2018年 「インド・オリッサ州におけるライブとダリット-マイノリティ集団間関係を考える」 『マイノリティ研究会ニュース』No.83 (2018年8月10日) 24-40頁

3. 田辺明生 2018年「生き延びてあることからの了解不能性から、他者とのつながりの再構築へ----インド・パキスタン分離独立時の暴力の記憶と日常生活」田中雅一・松嶋健編『トラウマ研究1 ト라우マを生きる』495-520頁
4. 池亀 彩 2018年「南アジア(近現代)」『史学雑誌』第127編、第5号(2017年の歴史学界「回顧と展望」)、pp. 288-291.
5. 田辺明生 2017年「日印交流の未来 言語文化の多様性と普遍性」『文学・語学』218号、45-55頁。
6. 田辺明生 2016年「多様性の公共的表現としての多元的デモクラシー ポピュラー・ポリティクスについて日本がインドから学べること」『アリーナ』19号、150-159頁
7. Aya Ikegame 2017 'Moral Transcendence? The guru in democracy', *Seminar*, vol. 693, pp. 56-58.
8. Yoshiaki Takemura 2018 "Conflict between Cultural Perpetuation and Environmental Protection: A case study of Ritual Performance in North Malabar, South India", in Pallabi Chakravorty and Nilanjana Gupta (eds.), *Dance Matters Too: Memories, Markets, Identities*. Taylor & Francis, pp.36-48, 2018.
9. Yoshiaki Takemura "Reluctant Pedagogies: New Media, Dance, and the Indian Diaspora in Singapore", in Kyoko Matsukawa (ed.), *International Workshop Globalization of Indian Performing Arts in New Media Situation: Dynamics of Cultural Gyre, Workshop Proceedings*. Pp.55-66, 2018.
10. 竹村嘉晃 2016 「芸能のグローバルな伝播・発展に関する研究動向」『民博通信』155号、25頁。
〔学会発表〕(計 48件)ここでは代表的なもののみ挙げる。
1. Aya Ikegame 2019 'Guru Governance: Devotional Citizenship and Rural Development in Southern India' at *Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion*, 国立シンガポール大学(NUS) 29th March 2019 (国際学会)
2. Shinya Ishizaka 2019 'Glocalization of Natural Farming' at *Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion*, NUS, 29th March 2019 (国際学会)
3. Akio Tanabe 2019 'Democracy and Development in Tension: Predicament of Politico-economic Stalemate among the Dongria Khonds in Odisha, India' 国際学会 *Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion*, NUS, 29th March 2019
4. Yoshiaki Takemura 2019 'The Arts Power on!': The Development of Indian Performing Arts and the Germ of Cultural Policy in the Early 1960's in Singapore' 国際学会 *Rethinking Development: Network, Brokers and Devotion* (同上)
5. Shinya Ishizaka, 2019 "Social Movements and Social Transformation in Uttarakhand", *International Seminar on Assessing Citizen Participation and Voices in the Era of democratic Decentralisation in Indian States: Interdisciplinary Approaches*, ISEC, Bengaluru, March 15, 2019 (国際学会)
6. 田辺明生 2018 基調講演「日印知的交流の歴史と現代的意味」文部科学省『大学の世界展開力強化事業 第一回シンポジウム「日印交流の現状と展望 プラットフォーム構築にむけて」』2018年12月20日
7. Akio Tanabe 2018 'Recent Socio-economic Changes in Niyamgiri Region in Odisha, India: With Special Attention to Scheduled Tribes and Scheduled Castes', International Workshop: "New Stage of South Asian Agriculture and Rural Economies", Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 22-23 December 2018. (国際学会)
8. 田辺明生 2018 依頼講演「部族民と不可触民 インドにおける差別の諸形態」人文研アカデミー2018「人種神話を解体する 可視性と不可視性のはざまで(In) Visibility」東京新丸の内ビル 2018年10月12日
9. 田辺明生 2018 依頼講演「多様性社会としてのインド - 南アジア型発展径路を考える」シンポジウム「インドの価値観と社会構造 - 日本と西洋との比較研究」同志社大学今出川キャンパス 2018年11月10日
10. Aya Ikegame 2018 'Gurus and Education: Hindu monastery (matha)-run schools in Karnataka', at the ICSSR-JSPS Joint Seminar Programme: *Aspects of Religion and Everyday Life with special reference to India and Japan*, Dept. of Sociology, Delhi School of Economics, University of Delhi, March 21-23, 2018 (国際学会)
- 11-14. Aya Ikegame 2017 (講演4回) 'New Forms of Dalit Cultural Assertion: rejecting buffalo sacrifice in South India' (10th November), 'Gurus and Rural Governance in South India' (14th November), 'Cosmopolitan Silk: James Anderson and the Madras sericulture project in the late 18th century' (17th November), 'Democracy sans

- election: the changing nature of rural governance in South India' (20th November) at the Ecole des Hautes études en science sociales at EHESS, Paris.
15. Aya Ikegame 2017 'Untouchability Compared: political experiences of Burakumin in Japan and Dalits (Adijans) in South India, delivered at the Department of East Asian Studies and Miranda House Collage, U of Delhi, 31st July & 1st August, 2017.
 16. Akio Tanabe 2018 'Anti-Racism and Spiritual Universalism: Connection and Diversion of Transnational Nationalisms of Japan and India in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries International Seminar on Race and Racism', EHESS, Paris(招待講演)(国際学会)
 17. Akio Tanabe 2018 'Is there a South Asian path of development? Comparative attempts on shapes of Asia', "Shaping Asia/s Connectivities, Comparisons, Collaborations" Workshop at the Centre for Interdisciplinary Research, Bielefeld University, Germany(招待講演)(国際学会)
 18. 竹村嘉晃 2018年「神霊イメージの濫用 - ケーララの神霊信仰と左翼・メディア・ポピュラーカルチャー」、日本南アジア学会学会設立30周年記念連続シンポジウム第3回「南アジアにおける表象と身体」、東北大学、2018年5月26日[招待有り]
 19. Yoshiaki Takemura 2018 Performing Ramayana: Contact Zone, Singapore Indian Dancers and their Reflexivity, the 5th Symposium of the ICTM Study Group on Performing Arts of Southeast Asia, Sabah Museum, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia, 2018年7月20日(国際学会)
 20. 竹村嘉晃 2018年「シンガポールにおけるナショナルなインド舞踊の発展—芸術文化政策の黎明期を中心に」、日本南アジア学会全国大会、金沢・歌劇座、2018年9月29日
 21. Shinya Ishizaka, 2018 "Glocal Development of Natural Farming Movement", XIX ISA World Congress of Sociology, Metro Toronto Convention Center, Toronto, Canada, July 18, 2018
 22. Yoshiaki Takemura, 2018 The Development and Dilemma of Indian Dance in Japan: Narrowness, Purity, and Buddhism, Conflict and Convergence: Bharatanatyam Culture in Contemporary Asia 2018, National University of Singapore, 2018年10月13日(国際学会)(招待講演)
 23. Yoshiaki Takemura, 2017 "Rediscovering 'Indianness' or 'Belonging': Singapore Indian Dancers and their Encounter with Southeast Asia at Ramayana Festivals", The 1st Asian Consortium for South Asian Studies, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, November 5, 2017.
 24. Shinya Ishizaka 2017 Sevagram International Conference on Non-violent Economy and Peaceful World(招待講演)(国際学会)
 25. Shinya Ishizaka 2017 'Natural Farming Movement' at Sevagram International Conference on Non-violent Economy and Peaceful World(招待講演)(国際学会)
 26. 石坂晋哉 2017年「自然農法運動のグローバルな展開」中四国法政学会、2017年
 27. 竹村嘉晃 2017年「人と生活世界を紡ぐ芸能民族誌」、舞踊学会第22回定例研究会研究奨励賞受賞者講演、筑波大学東京キャンパス文京校舎、2017年6月11日
 28. Yoshiaki Takemura 2017 The Transmission and Development of Indian Dance in Singapore in the 20th Century South Asian Studies Programme Seminar Series, Faculty of Arts & Social Sciences(国際学会) Jan. 25, 2017, NUS, Singapore
 29. Aya Ikegame 2017 'Was power transferred to whom?: Princes and Gurus in Modern Mysore', at Prof. Achuta Rao Memorial International Conference, Feb. 17-18, 2017, Mysore University, India. (招待講演) (国際学会)
 30. Aya Ikegame 2016 'Moral transcendence? the guru in democracy' the 45th Annual Conference on South Asia, Oct. 20-23, 2016, Madison, USA. (国際学会)
 31. 石坂晋哉 2016「環境運動はいかに生まれ何を变えたか チブコー(森林保護)運動を事例として」第25回京都大学地球環境フォーラム2016年5月21日、京都大学
 32. Shinya Ishizaka 2016 "The Right to Know Is the Right to Live": The Right to Information Movement in India" 3rd ISA Forum of Sociology, July 13, 2016, University of Wien, Vienna, Austria. (国際学会)
 33. Akio Tanabe 2016 'Various Forms of Money-use in Early Modern India', The Variety of Exchange and the Character of Money, Nov. 18, Ecole Normale Superiur, Paris (招待講演)(国際学会)
 34. 竹村嘉晃 2016 神霊祭祀が具現化するインド民俗学の視座 現代民俗学会第32回研究会「フォーク・メディアとフォーク・コミュニケーション」神戸大学

〔図書〕（計 8 件）

1. Aya Ikegame 2019 (印刷中) 'The guru as legislator: religious leadership and informal legal space in rural South India' in D. Gilmartin, Pa. Price and A. E. Ruud (eds.) *South Asian Sovereignty: The Conundrum of Worldly Power*, Routledge, pp. 104-132.
2. 池亀 彩 2019「飲むべきか飲まぬべきか - ベンガルール市でのフィールドワークから」井坂・山根編『食から描くインド』春風社、pp. 303-341.
3. Aya Ikegame 2017 'To Whom was Power Transferred? Overlapping Sovereignities in Modern India', in D. A. Prasanna and K. Sadashiva (eds.), *The Princely States and the Making of Modern India*, Manipal: Manipal University Press, pp. 38-52.
4. 田辺明生 2019「第9章 独立後のインドの社会と文化」長崎暢子編『世界歴史大系 南アジア史4 近代・現代』290-325頁。
5. Shinya Ishizaka, " 'The Right to Know Is the Right to Live' : The Right to Information Movement in India ", in Tatsuya Yamamoto and Tomoaki Ueda (eds), *Law and Democracy in Contemporary India*, London: Palgrave Macmillan, December 12, 2018, pp. 131-145.
6. 池亀彩、石坂晋哉、竹村嘉晃、他. 2018年 インド文化事典編集委員会編『インド文化事典』丸善、全770頁。
7. 田辺明生 2018年「「幸福追求の支えとしてのダルマ--秩序の再構築過程に注目して」嵩満也編『変貌と伝統の現代インド アンベードカルと再定義されるダルマ』法蔵館、全282頁。
8. Akio Tanabe 2017 "Conditions of 'Developmental Democracy: New Logic of Inclusion and Exclusion in Globalizing India" pp. 11-29, Minoru Mio, Abhijit Dasgupta eds *Rethinking Social Exclusion in India*, London: Routledge, 178 pages.

〔産業財産権〕なし

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：池亀 彩

ローマ字氏名：IKEGAME, Aya

所属研究機関名：東京大学

部局名：大学院情報学環・学際情報学府

職名：准教授

研究者番号（8桁）：40590336

研究分担者氏名：石坂 晋哉

ローマ字氏名：ISHIZAKA, Shinya

所属研究機関名：愛媛大学

部局名：法文学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：20525068

研究分担者氏名：田辺 明生

ローマ字氏名：TANABE, Akio

所属研究機関名：東京大学

部局名：大学院総合文化研究科

職名：教授

研究者番号（8桁）：30262215

研究分担者氏名：竹村 嘉晃

ローマ字氏名：TAKEMURA, Yoshiaki

所属研究機関名：国立民族学博物館

部局名：学術資源研究開発センター

職名：外来研究員

研究者番号（8桁）：80517045

(2)研究協力者 なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。